

『百合生徒会長と秘蜜のティールーム

～ 水泳部 速水スイの場合 ～』 初稿

キャスト

極楽寺 百合（ゴクラクジ ユリ）○○

速水 スイ（ハヤミ スイ） 和泉あやか

後輩

アナウンサー

子供

1 極楽寺 百合生徒会長からの招待状

■速水スイ モノローグ

//ME 優雅なクラシック？お嬢様学校の雰囲気BGM
(ティーパーティーのテーマ的な曲)

スイM「私の名前は速水 スイ。

小さいころ、自分は魚に生まれてくるはずだったのに、
間違えて人間に生まれてきたのだと本気で思っていた。
水だけが私を自由にしてくれた。泳ぐことで私はどこまでも行けた。
そうしてたどり着いたのが、良家の令嬢が集う名門女子校
『リーガルリリー学園高等部』
私は水泳の特待生として、日本最高の教育を受ける機会を得た……
の、だったが……」

//ME ゆっくs f.o.

■朝 下駄箱にて

//SE 学校チャイム

//SE 朝の女子高の登校ガヤ

スイ 「(深い溜息)はあ……。ん？ 手紙……？」

//SE 手紙の封を開ける

スイ 「……っ！」

スイM「このリーガルリリー学園高等部には学園の特権組織で、
選ばれた生徒のみが入会を許される社交クラブがある。
その社交クラブの主催であり、リーガルリリー学園のトップ、
生徒会長であるのが……」

スイ 「極楽寺……百合、生徒会長！これ、ティーパーティーの招待状だわ」

35 スイM 「入学したばかりのころ、すでに引退された先代の部長から絶対に秘密
36 だと教えられたことがある。万が一、自分になにかあった時、百合生徒
37 会長からの救いの手が伸べられるかもしれない……と」

38
39 スイ 「もしかして……これ、が？」

40
41 後輩 「ごきげんよう、スイ先輩！」

42
43 スイ 「きゃ！（手紙隠す）ああ、おはよ……」

44
45 後輩 「あの……今日は、水泳部の練習……来ていただけますか？」

46
47 スイ 「え？」

48
49 後輩 「私、タイム伸び悩んで……」

50 スイ先輩の泳ぎを見て勉強させて頂きたくて……」

51
52 スイ 「ああ、ごめん、今日は無理なんだ……！（と、言いながら行こうとす
53 ね）」

54
55 後輩 「でも……！（と）何週間も練習いらっしやらないから、私心配で……」

56
57 スイ 「ごめん、大丈夫だから……っ！（走って立ち去る）……ごめ、ん！」

58
59 後輩 「あ！ スイ先輩……！」

60
61 //SE 廊下を走る足音

62
63 スイ 「（走る息）はあっ……！はあっ……！はあっ……！」

64
65 スイM 「何かあった時に……救いの手が……。
66 その時の合言葉が……たしか……」

67
68
69
70

■リリー学園女子社交クラブ ティールーム

// M E 優雅なクラシック？お嬢様学校の雰囲気BGM
(ティーパーティーのテーマ的な曲)

上品でクラシックな室内、目の前には、高級茶器と豪華なお茶菓子が盛りつけられた大テーブルが……。

スイ 「(息をのむAD)……社交クラブのティールーム……」

会長 「お忙しい中ご足労頂きありがとうございます。」

私は極楽寺百合と申します、初めまして。
……といっても、速水スイさん、日本のトップスイマーである
あなたのご活躍をいつも拝見しております」

スイ 「はっ……！ はい！ 私も百合生徒会長のことは……
それは、もう……！
あの、本日はお招き頂きましてありがとうございます。」

会長 「うふふ、私達ふたりのパーティーですから、堅苦しくなくて結構よ。
今日は、あなたのために用意させたお茶菓子とお紅茶ばかりです。
どうぞ、楽しんでいただければいい」

スイ 「あ、ありがとうございます……！ でも、どうして……」

会長 「まあ、お茶を頂きながらゆつくりおしゃべりしましょう」

// M E ゆつゆのf.o.
// S E 「ポコポとティーポットからお茶を注ぐ音 (時間経過)」

会長 「まあ、吉尾コーチに？」

西海大学水泳部監督とJOCの強化コーチも兼任されていた方よね」

スイ 「はい。お詳しいんですね」

会長 「ええ、私も幼少のころ水泳を習っていたの」

107 スイ 「そうでしたか……どこかのプールサイドですれ違っていたかもしれ
108 ませんね……って、か、会長のようの方が一般市民が通う水泳クラブに
109 いらっしゃるわけないかー」
110

111 会長 「でも……吉尾コーチはちゃんとあなたを見つけ出して、ここまで育て
112 られたわ」
113

114 スイ 「はい……私のことを、人魚姫だと言って、それは熱心に」
115

116 会長 「うふふ、コーチらしい」
117

118 スイ 「だから……今の私を見て、ガッカリしていると思います。
119 会長も、それで私をお呼びになったのでしょっつ。」
120

121 会長 「……聞かせて頂ける？」
122

123 スイ 「笑われるかもしれませんが……ある日、数字が……泳いでる私の手足
124 にまとわりつくようになってきたんです。その数字は、私が出してきた
125 記録タイムなのか……よく、わかりません。

126 それはタールみたいに真っ黒で粘りついてきて……日に日にびっしょ
127 りて重くなっていく。

128 当然タイムは伸びなくなるところか、とどんどん落ちていきました。

129 そんな私を今のコーチたちは叱ったりなだめたりしましたが

130 何も改善されません。

131 毎日のようにチームメイト、後輩、スタッフ、ファン、親からの叱咤激
132 励、悪口、慰めの言葉……そんなものを浴び続けて……
133 気が付いたら、水に触れられなくなりました」
134

135 会長 「……」
136

137 スイ 「水が……怖いんです。水の中でしか自分ではいらなかったこの私が…
138 ……水に入るの怖いんです。

139 今では湯船にも浸かれません。重症です。

140 私……もう、どこにも居場所がありません（泣く）」
141

142 会長 「そっだったの……お気の毒じ……」

143
144 スイ 「(決心の大きなため息)……はあー「open your eyesを」だわ！」」
145
146 会長 「……！ ……その合言葉を」存じとは、さすがが校のスター選手ね」
147
148 スイ 「お願いします。早く……泳げるようにならないといけないんです」
149
150 会長 「その合言葉の意味は」存じ？」
151
152 スイ 「会長から救いの手が差し伸べられるとだけ」
153
154 会長 「それは全てを私に委ねて構わないという意味だけれども……？」
155
156 スイ 「はい、構いません。もう、藁をもつかむ思いなんです」
157
158 会長 「承知したわ」
159
160
161 //SE 紅茶を作る茶器の音
162 会長 「「open your eyes」とは、この学園の生徒会長職を受け継ぐものに
163 け入れ方を伝授される特別なお茶の名前です……」
164
165 //SE 紅茶をテーブルに出す音
166
167 会長 「やあ、召し上がね」
168
169 スイ 「「じゅの……いただきます……」
170 (グイッと飲み干すAD)……っはあ、「うちそつさまでした！」」
171
172 会長 「よろしい。速水 スイさん、我が社交クラブの特別ルームへようこそ」
173
174 //SE 部屋の奥の大きなカーテンが開く音
175
176 スイ 「！！ すい……いー！ この部屋の奥に、まだこんな広いベッドルームが
177 あったなんて……」
178

会長 「これから秘蜜のセッションを行います。……本音でいいのね。」

スイ 「……はい」

会長 「……では、私の手を取って。じゅんく……あひる」

スイ 「じゅんく……」

終わる

12 百合会長と秘蜜のセッション・開始♡

■社交クラブティールームのさらに奥の部屋

スイ 「すごお……い。素敵なベッドですね」

会長 「プラザのエロイースにあったものが気に入って同じものを。
あなたにも気に入って貰えたら嬉しいわ……」

スイ 「え?」

会長 「そうよ、ここに横になって頂いて……
これからちょっとした催眠を、あなたにかけたいと思います」

スイ 「そんなこと……できるんですか?」

会長 「さあ? かかって頂けるかどうかはあなた次第。
では、リラックスしていただくために、制服をお預かりするわね」

スイ 「ぬ、脱ぐんですか?」

会長 「へ、すべてを私に委ねても構わないとお聞きしていたけれど?」

スイ 「……もちろんです、脱ぎますー!」

会長 「うふふ、勇ましい。私が脱がして差し上げたかったんだけど……
逆に緊張させてしまっかしら」

スイ 「(制服を脱ぐAD)」

//SE 制服を脱ぐ リボンをほぐす音など

会長 「まあ、下は……水着?」

スイ 「まだ、いつ泳げる日がきてもいいように、水着を着て生活しています」

250
251 会長 「素晴らしい心がけだね。その気持ちに恥じぬよう、
252 私も一生懸命にやらせて頂くわね」
253

254 スイ 「……はい、よろしく願いますー」
255

256 会長 「ふふ、では、水着はこのままで結構よ。
257 これからあなたの身体に触れていきます。
258 スイ、心の準備はいいかしら？」
259

260 スイ 「……！」
261

262 会長 「？ どうかして？」
263

264 スイ 「私の……名前を……」
265

266 会長 「ああ、下の名前で呼んでも構わない？」
267

268 スイ 「もちろんです……あの、嬉しんです」
269

270 会長 「ふふ、かわいい子。ういっ、じゃあ、まずは……髪に……。
271 サラサラで、まっすべなショートヘア。
272 そのかわいなお顔にも触れさせて……ふふ、ほほが熱い。
273 恥ずかしかったら、目を閉じていなれど。
274 耳……二枚貝のように綺麗な形……首筋……肩……さすがスイマーね、
275 引き締まって良い肩をしている……腕にかけて……腰……太もも……暑
276 いっ。
277 ちよっと汗ばんでくる……足、ふんわりはき……足の先……マッサージ
278 だと思って、リラックスして……どっど」
279

280 スイ 「(前会長のセリフ中、合わせて息AD)はい、気持ちいいです。会長、
281 いい匂いがして、ちよっとドキドキします……」
282

283 会長 「ふふふ、じゃあそのまま力を抜いて。全身をまなぐ触れていくわね……」
284

285 //SE 水着の上を撫でる衣擦れ音

286 スイ 「体を撫でられてくすぐったい息AＤ）」

287

288 スイ 「（胸を下から掴まれて）あんっ、…っ、会長…そっ、は……」

289

290 会長 「弾力があって、でも私の手に余るほどの大きさ……とってもキレイな乳
291 房ね。あら？どうしたのかしら、乳首……こんなに立って……」

292

293 スイ 「んんっ……んんあ」

294

295 会長 「まだ緊張してるのかしらっ。 っっから、ほべっまじゅっ」

296

297 スイ 「ふああっ……！んっ、んん……んっ……んっ……あう……んんっ。
298 かい……ちよう、ちよっど……」

299

300 会長 「どっかっっっ？」

301

302 スイ 「これは……なに、を……」

303

304 会長 「深い催眠状態になって賣ったためのマッサージを」

305

306 スイ 「でも、こんな……」

307

308 会長 「そう、ね。もう少し詳しく説明をいたしまじゅっ。
309 このお部屋、アロマの香りがしているの、気が付いていらっしやるっ。
310 深層心理へ届くために特殊な配合をされているものでね、
311 この匂いに導いてもらいながらあなたの無意識の領域まで行き、
312 水が怖いというデータを水は良いものだと言き換える作業をするの。
313 マッサージはそのために必要なものだけと……

314

あなだが嫌ならすべやめる。

315

でも、もし……私に任せて頂けるなら……このまま……（胸を揉みじゅっ）」

316

317 スイ 「んあっ……！ はっ、あ、ああ……んっ、

318

乳首はっから……じゅっ、なっっ」

319

320 会長 「え？（乳首をっっっちゅっまね）」

321

322 スイ 「んあうっ！」

323
324 会長 「では……残念だけれど、やめましょっか」

325
326 スイ 「はあっ はあっ ……え？」

327
328 会長 「言ったでしょ。あなたに嫌な思いをさせてまでこんなことは……」

329
330 スイ 「会長……」

331
332 会長 「ただ、合言葉を言える子にしか私はここまでしないのよ……？」

333
334 スイ 「……っ！」

335
336 会長 「あなたが決めることよ」

337
338 スイ 「……お、ねがい……します……！」
339 やっぱり……私、まだ泳げるようになりたい……！」

340
341 会長 「（頷ぐ）貴女の気持ち、受け取ったわ。私も命をかけて……（おっぱい
342 揉む）」

343
344 スイ 「んくっ！ ふああっん……んっ……んっああっ！」

345
346 会長 「……ああ、乳首を水着越しに爪でカリカリされるのがいいのね、
347 わかったわ」

348
349 スイ 「あうっ、いや、ちが……んふっ、んんっ、あ、んあ、ちが、い、ます
350 ……！ あ……あ……あっあああ……う……ああ！ ん……ん……あ……ん……ん
351 ……っ！ かいちよお……はっ、あ、へん、な、声……出ちゃっ……！
352 ……すみま、せ……あの、紅茶を飲んでから……っはあ、……っ、から……
353 ……だ、が、熱くて……んあっ、はしたない……声を……あうっん……んんっ
354 ……んんっ」

355
356 会長 「ああ、あのお紅茶ね。気持ちをリラックスさせる効果があるけど、
357 副作用で身体中の先端を少し敏感にさせてしまっようなの」

358 スイ 「ええ!？」

359
360 会長 「私は構わないわ。いじには誰も来ない。
361 声が出てしまつたら、身体がしたいようにやせなれ」
362

363 スイ 「そんな、(乳首つまむ)んあっー
364 (乳首布越しカリカリ)んっ…、ん、ん、……っ、っふあ、…あん、あ
365 んんっ…… (口で声抑え) ……ふっ、んう、んんー、んんー、っはあ、
366 んんっ、んむう……会長っ……水着越し、で、乳首……弄られ、たら…
367 …感じすぎ、て、しまいます…こんな、声……はず、かしい……!」
368

369 会長 「そんなことはないわ、とってもかわいいわよ」
370

371 スイ 「かわ…いい!? んあうっ… っはあ、はあ、…あうっ…
372 いや…んあうっ…はあ、はあ、会長…だ、め…おっぱいそんなに、
373 カリカリされたら…わた、し、……もっ……!」
374

375 会長 「そう? では、次の段階ね。私の手を、水だと思つていらんなれ」
376
377 スイ 「……え?」

378
379 会長 「水はあなたを包み、守り、抱きしめるものだった。こんな風に……
380 あなたを気持ちよくさせてくれる存在だったはずよ」
381

382 スイ 「…っあ、(少し恐怖で強張る)んんっ……」
383

384 会長 「大丈夫、水はあなたの敵じゃない。手を、貸してっ。
385 ……ちょっと失礼。(指舐め)んちゅ ちゅるる、んちゅるちゅる」
386

387 スイ 「んあう! あ、ああ……会長が、私の指を……あ、ああ……」
388

389 会長 「んちゅるっ。んはあ……私の唾液も水分だけど……怖いっ」
390

391 スイ 「い…いえ……」
392

393 会長 「んじゅるるる」

394 スイ 「んふあっ……！ あっ…、かいちようの……舌、きもち、いい……
395 舌が…指先……から、み、ついて……」

396 会長 「んふ、んじゅる、ちゅっ、ちゅるる、ぺろぺろ……んじゅるる、ちゅ
397 るる、ちゅぱちゅぱっ……んじゅぶるる……ちゅるるる」

399 スイ 「っはあ、あ、んんっ……！ 指の先っぽ……きもち、いい………！

401 会長…ああ、ん、…会長の舌…えっち…えっち…です……ダメ、我慢
402 ……出来ません……（自分から顔を近づけ、キス）あむっ…うん」

403
404 //AD 二人キス息

405 会長 「んはっ……。今、交わし合った唾液も水分よ？ 怖い？」

407 スイ 「こわく、ないです。あ…かいちよ、もっと…もっと……ですっ………！」

408
409 //AD 二人キス息 キスされながら乳首カリカリされる

410 スイ 「んっはあ……あっ、ああんっ、会長、おっぱい今敏感だから……

411 あむっ…んっ（キスしながら）んちゅ、ちゅるっ……キシユしながら…
412 そ、んなに…乳首、カリカリ……っあ……擦られたら……んちゅっ、ち
413 ゅぶっ、ンチュるるっ…や、やあ…っはあ、はあ、んあっ…んっっ、ん
414 んんー、んんんー」

415 会長 「そっ？ じゃあ、こっちにキスしようかな」

416
417 //AD 会長 おっぱいぺろぺろ

418 スイ 「ふああんっ！ あ、っはあ……っ、うう…あん…おっぱい…舐めちゃ
419 ……だ、めえええっ………」

420 会長 「（水着の上から乳首舐めまわしAD）」

421 スイ 「うああ…んっ！ や……あ……あっ、あっ、ンあ…っ！

422 先っぽ……吸わないで…水着越しが…じれったくて…ああっ、んっっ…
423 はあ、はあ、はあ…っ…んっっ…んんっっ…っっっ、ふっっっ

……きもち、うっ……」

会長 「そっね、お水は気持ちいいわね。そして……あなたの身体にはね、
もっともっと、お水が湧きだすところがあるよ。」

//SE 秘部に触れる衣擦れ

スイ 「ひゃうっ！ あっ……！ 会長……そっ、は……」

(AD あそい遊びの音、撫でられる息、5秒、5秒)」

会長 「あらあら、びちょびちょじゃない。水着から溢れちゃってる。
先端が敏感になっちゃってるから……うふふ、クリトリスが熱くなって
…充血して膨らんでるの……布越しでもすべわかるわよ。
っこも…爪で「リリリ」して差し上げましょっね」

スイ 「あ…ダメ……（「リリリ」）っはああっ！ んあっ、はっ、っ！
ああ、ああっああ…う……あ……！ ん…ん……！ あ…っん…ん」

会長 「そっよ、いい声が出てきてる。身体が思うままに…声、出して……」

スイ 「ああ、ああ、あ！ っ…ん…ん！ っ……あああう、あっ、ああ…
あ…ああ！ ん…ん…！ かい、ちょ…これ…強、すぎ……れすう
……！ ああ…あっ…ん…ん…っ…あああ……！ ああああ！
ん……や、だ…こんな…はしたない、声……んふっあ、あっ、
奨学金で…っこ、に、いるのに……水、怖くなっちゃって……
こんな役立たずなのに……気持ちいい……気持ちいいよ……っ。
んあっ、んくう……っはあ、はあ、んあうっ！ っ……こんな…私……
嫌いに…ならない、で…っだ、さっ……っはあ、はあ……っ」

会長 「うふふ、バカね。こんなにかわいい声を素直に聴かせてくれる子をど
うやって嫌になれというの？ ……はあ、スイ……とってもすてきよ
……。あなた、今、どんなに私の劣情を掻き立てているか、わかってる。」

スイ 「ほん……と、ですか？ うれ……しい……っ…ん……！
っ…あ…あ……！ ああん…」

466 会長 「……じっ、すごい音。どんどん愛液が溢れてきて…
467 腰が勝手にガクガクしてる……。気持ちいいのね、スイ……」
468

469 スイ 「んうっ…きも、ち、いい…です……」
470

471 会長 「私の手は水……私の手は水よ？ 思い出して……」
472

473 水はあなたを丸ごと包み込んで、あなたをこんなに気持ちよくさせてく
474 れる存在だったはずよ。
475

あなたの大事なところからだって…こんなに溢れ出ているわよ…っ」

476 スイ 「はい、気持ちいいです…きもち、いい……んあうううっ、会長、もっ、
477 ダメです……身体が熱いんです、布越しじゃじれったい……あそこが切
478 ないの……会長……会長……」
479

480 会長 「あらあら、泣かなくていいのよ。
481 そうね、そっいえば私も喉が渴いてきたかしら……」
482

//SE 衣擦れ 水着をずらす

483 スイ 「どう、ぞ……私の、お水……飲んでください……」
484

485 会長 「あら、うふふ、じ丁寧に自分で大事なところを露わにしてください
486 ……。まあ、とてもおいしそう。ありがとっ、スイ。
487 (クニニAD) ……じゅるっ、じゅるるるる」
488
489
490

//SE クニニ音

491 スイ 「……………っふあっああんっ！ んあっ、んうっ、んんっ、んあうっ、
492 ……っはあ、はあはあはあ……う……んっ……ああ……会長が……わたし、の……
493 舐めて、る……うっうっうっ！ はあ、ああ、舌っ……会長の、舌……きもち、
494 い……ああ……ああ！ ああああううう……っ！
495 ……ん……あああっ！ う……ああ、ああ、ああっ……ああ、ああ、ああっ
496 ……！ クリ、そん、なに、吸われたら……う……うっ！ んん……
497 あ……あ……あ……あ……あ……き、もちいいーき、もちいい
498 ……会長の舌、すっ……い、です……っはああう！
499 ……っはあ、はあ、はあ……」
500
501

会長

「んはっ……うふふ、スイのお水……とっても、おいしい……
んじゅる……じゅるびゅるる……濃い、えっちな味がしていてよ……
もっと……気持ちよくなりましょう……クリをこっして……
舌の先端でぐりぐりこつてね……
（中へ指入れながら）この奥……ちゅこちゅこしてあげましょうね……
じゅるっちゅるっ」

スイ

「……っ！ んああはああっ！ ゆ、び……入って……く、る……！」

//SE 手マン水音

スイ

「（手マン）んんっ！ ゆ、び……そんなところ……ああっ……ああ
……あっ……あああ、あああっ……あ……あふうう……！
あ……！ あ……あ！ んん！ きも……ち、いい……そこ、擦られた……ら
っ！ んああっ！ んんっあああ……っ！ ……！ ああ……っ……！
ああ！ ……！ あああ……っふうう！ そ、こ、やあ……！
そこ、そこ、ダメ、ダメダメダメ……んんっあ……あ……ああっん
ん……っ」

会長

「うふふ、みーつけた。スイの……弱い場所……こっ、かしらっ」

スイ

「ひゃあう！ ……か、いちよ……だめ、ホントに、ダメえ……！
ゆ、び……増やし、ちゃ……ああん……んああ……あっ……ああっ！
っ……あああ……っ！ ……あああ……あっ！ ふ……う……あああ……っ！
あん……！ クリ吸われながら……そこ、そんな……さ、したら……
ンあああ……！ あ……ああ……っ……ん……んん！ ……あ……い、や
ヤダ、ヤダ、あああ……あああっん……か、んじ……過ぎちゃっ、よおお
う……あ……っ……あ……っ……あ……っ……気持ち、いい……
気持ち、いい……気持ち、いい……いい……いい……いい……！
ふうう……うっ！ あ……！ ん！」

会長

「うふふ、ヤダこの子ったら。勝手に腰が動いて止まなくなっちゃっ
て……これじゃ舐められないじゃない。じゃあ……
（//SE 身体を移動させる衣擦れ）
こっちのお口を頂こうかな……
（手マンしながらキス）あむ、ん……んちゅ……ちゅるる、じゅる」

538 スイ 「(キスされながら喘ぎ)んぷんぷん、んづ、んづづ、その、言い方……
539 っっても、お下品……」
540

541 会長 「んぷふ、いめんなさいね。だって、どちらのお口も美味しいんだもの。
542 ほら、あなたはここに……集中して……。今、あなたのことを気持ちよ
543 くさせてるのは、水よ……。あなたのお水と溶けあって……
544 どんどん気持ちよくなっていく……んちゅう……ちゅるる」
545

546 スイ 「(キスされながら喘ぎ)ん……んぷん、ううん、うっ、んづんづん、んは
547 あ、はあ、んちゅう……うん、んづ、ううんっ！ あああああ……っづ
548 ううっ！ ああ、あ、あ、ああっ……ん……んん……！」
549

550 会長 「ああ……スイの中……すくくしまる……私の指、ぐいぐい飲み込まれちゃ
551 う……そう。もうイクのね……？」
552

553 スイ 「あ、あ、あ、あ、あ、……ああ……ああっん……！
554 ああう……っ……！ あ……ああっ……」
555

556 会長 「イクときは、ちゃんと私の目を見て……」
557

558 スイ 「……あああっ……あああっ……あああっか……い、ちょ……」
559

560 会長 「ちゃんと、イクって言いなさい……」
561

562 スイ 「あっああああっ……ん……んっああああ……！ うううう……！
563 っ！ ああっ……も……だ、め……ん……も……おおう……う……だ……
564 っ！め……え……！」
565

566 会長 「うふふ、かわいい……！スイ、私の目を見てイキなさい。ほら、ほら
567 ……スイ……イッて……！」
568

569 スイ 「イ……ク……イックイ、ク……っ、か……い、ちょう……イ……キます……イ
570 キます……もうイッちゃうんづんづんづんづんづんづん……！」
571

572 //SE ぶしゃあ 潮吹き水音
573

574 スイ 「んあああっ！ うああ……あああ……はあ、はあ、はあ、ん……
575 はあー……はあー……はあー……」
576

577 会長 「ああ……素晴らしいわ、スイ。すべてを解放して、受け止めることが
578 できたわね。……どう？ 久しぶりに水と戯れた気分は？」
579

580 スイ 「はあー……はあー……すじ、かった……です……。
581 ノープレス練習やり切った時より……きもち、いい……」
582

583 会長 「よろしい。では、今日のカウンセリングはこれでおしまいだねど…
584 ……次は、明日。同じ時間にいらしていただける……？」
585

586 スイ 「はあー……はあー……ハイ♡ もちろん……です」
587
588

589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
603
604
605
606
607
608

終わる

13 百合会長と、雨の中バルコニーでのセッション♡

■社交クラブティールームのさらに奥の部屋

//SE 2回ノック ゆっくりと扉がひらく
おそろおそろスイが入っている

スイ 「失礼……します。会長……？ いらっしゃいますか……？」

//SE 奥の部屋へ歩く靴の音（カーペットの上）

スイ 「まだいらっしゃらないのかしら……？」
会長おー……？ いらっしゃいませんか？」

会長 「（奥から）いじゅ」

スイ 「あ、会長……！ すみません、遅くなりまっ……て……」

//SE 部屋の中から聞く雨の音
バルコニーで雨の中ただずむ会長を見つけて慌てるスイ

スイ 「会長……！ こんな雨の日バルコニーで何されてるんですか……？
早く中へ……！ 風邪をひいてしまいます……！」

会長 「あら……あなた知らないの？ こんな日の雨って、暖かくて優しくて
……じゅっじゅると気持ちがいいのよ」

スイ 「でも……」

会長 「今日のカウンセリングはここで行います。一緒に雨に濡れてみましょう。
う。今日も下は水着かしら？ 制服を脱いでバルコニーへいらっしゃい」

スイ 「そんな……会長のお召し物が濡れてしまいますわ」

会長 「そんなに心配して頂けるなら……早く行ってくだねらなご。」

644 スイ 「! ……は、はい! ただいま……!」
645
646 //SE 先ほどより強い雨音 うすくノストまで
647
648 スイ 「会長……」
649
650 会長 「うふふ、来たわね」
651
652 スイ 「やっぱり、雨が強くなってます……やっぱりお部屋の中へ……」
653
654 会長 「待って、そこで止まって」
655
656 スイ 「は、い?」
657
658 会長 「よへ、見せろ?」
659
660 スイ 「何…をですか?」
661
662 会長 「貴女を……よ。良く日焼けした肌に、引き締まった長い手足……アス
663 リートの美しい身体、好きなのよ、私」
664
665 スイ 「会長……」
666
667 会長 「……」
668
669 スイ 「そんなに見つめられると……恥ずかしい……です」
670
671 会長 「……」
672
673 スイ 「会、長お……」
674
675 会長 「スイ、雨は怖い?」
676
677 スイ 「……そついえは。考えたこともなかったですが、雨は平気みたいです」
678
679 会長 「そつ。では、もう少しじじじについて構わなう。」

680
681 スイ 「はい、ですが……そんな濡れたままでは風邪を……」
682
683 会長 「じゃあ、スイが温めてちょうだい」
684
685 スイ 「え？」
686
687 会長 「あなたを抱きしめても構わない？」
688
689 スイ 「……！ は、い……もちろんです」
690
691 //SE 抱きしめる衣擦れ
692 //AD 会長 抱きしめる息
693
694 スイ 「（抱きしめられる）はっ……んっ つ、めた……」
695
696 会長 「……ふう、あなたは温かい……スイ……」
697
698 スイ 「（見つめ合ったままキス）会長……お……んちゅ、
699 んあっ……んちゅるる、はあ、んちゅるる」
700
701 //AD 二人 キス息
702
703 会長 「んは…っ。雨の中でキスをする……溺れそうになるわね」
704
705 スイ 「はあ、はあ……会長……（キス）んっっ」
706
707 会長 「（キスしながら）雨の…水に、私とあなたの……唾液が混じって……
708 ちゅるっ…スイ…かわいい、スイ……」
709
710 スイ 「（キスしながら）んっ…っはあ、美味しい……んちゅっ…ちゅっ…
711 お水……美味しい……んちゅっ、ちゅぱっ、ちゅるる」
712
713 会長 「……で……スイ、どうして……もびしょびしょなの？」
714
715 スイ 「（あそこ触られる）あふっー」

716
717 会長 「雨の水とは…違う液体が……スイの太ももを滴っているのだけど？」
718
719 スイ 「すみません……会長に見つめられただけで、なぜか……
720 あそこがジンジンしてきてしまっ……その……」
721
722 会長 「うふふ、構わなくてよ。では……このカウチに身体を預けてしまっ
723 ……足、広げて。ここに、足、かけて……」
724
725 スイ 「はあ、はあ……。はい……」
726
727 //SE ラタンカウチにめくく座る
728
729 会長 「ああん……スイったら……。スイのえっちなところだけ、
730 雨がどしゃ降りだったのかしら？
731 (クニニ) ……んちゅっゅちゅっ……ちゅるっちゅるっ」
732
733 //SE クニニ水音
734
735 スイ 「……っ！ んあふっ！ ……くっ、くうん……息が……あたる、だけで
736 ……あふっ……んんっ……」
737
738 会長 「ちゅぱっ、ちゅぱっ、ちゅぱっ、
739 ……うふふ、スイのクリちゃんはずり大きくなるから、(この……
740 一番感じる部分、すべ出てきちゃうのよね……チロチロチロチロ……」
741
742 スイ 「んひゃうっ！ そ……っ！ ……あ……あ……！ ああっ、あ、あ……あ
743 あっ、や……あ……んうううう……さきっぽ、転がさ……ない……で……うくっ
744 ううう！ う……うっ……」
745
746 会長 「うふふ……あなたも運動部員だから知ってとは思っただけど……
747 このバルコニーの下………長距離走りこむ子たちのランニングコースに
748 なっているのよね……」
749
750 スイ 「……あっ！」
751

752 会長 「雨の中を走りこむ練習もあるみたいだけど……
753 そっね、きつと、雨の音がかき消してくれるわ」
754
755 スイ 「(自分で口をふくむ音)」
756
757 会長 「さあ、身体中で水を感じながら……私の舌を感じて……
758 水は気持ちのいいもの……水は、気持ちのいいものなのよ……
759 んちゅね……」
760
761 //AD 会長クン二息
762 //SE クン二音
763
764 スイ 「(口塞いで) んんっ！ んふっつっ……！ ん……んん……んん！
765 あ……ん……んふ……う……うっつ、っふ……う……！あ……！ っん……ん……
766 ん……！ っ……あ……うっつう……！ っ……あ……！ う……う……うっつ
767 うっ……うっ……」
768
769 会長 「うふふ……そっ、我慢して。お外でイクなんてはしたないわよっ。
770 我慢、我慢……」
771
772 スイ 「(口塞いで) んっつ……ふっつっつっ……」
773
774 会長 「うふふ、我慢……よ？ (指を入れる)」
775
776 //SE 指入れ水音
777
778 スイ 「(口塞いで) んっつっつっ……！ かい……ちょ……ゆ、び……は……！」
779
780 //SE 手マン水音
781
782 会長 「ハイハイ、こっ、でしよ？」
783
784 スイ 「んあっっ！」
785
786 会長 「ほら、声、いいの？」
787

788 スイ 「(口塞いで) んん……んん……んん……んん……!」
789

790 会長 「うふふ……ちゃんと堪えていないと。
791 ほかの子に聴こえてしまつわよ? …あむ……んちゅるるっ」
792

793 //SE 手マン水音
794 //SE クン二音
795 //AD 会長クン二息
796

797 スイ 「(口塞いで) …っ! …っ…っ…っ…っ…っ…っ! かい、ちょ……
798 そっ、ダメ……ホントに……だ、め……ふ…っあ……! …っん……!
799 ん……っ…っ…あ……うっ! …っあ…う……うっ…っ!
800 ううっ、んん……ん…っ…むっ…うっ…っ! …ん…んんっ…う…う」
801

802 会長 「んはっ……スイの中…ギユウギユウしてくるわよ……
803 雨とスイのお水で……いっぱい……」
804

805 スイ 「くっ…うあ…ん、あっ…っ、会、長……わた、し、もっ……溺れちゃ、
806 い……っ…ます……」
807

808 会長 「大丈夫、心がちょっとお休みしてるだけで、
809 あなたの正体は日本屈指のトップスイマーよ……」
810

811 スイ 「わたし、の……正体……?」
812

813 会長 「うふふ……大丈夫、私があなださえ忘れてるあなた自身を……
814 暴いて差し上げるわ……あむっ……んん……じゅるるっ」
815

816 //SE 手マン水音
817 //SE クン二音
818 //AD 会長クン二息
819

820 スイ 「(口塞いで) …っ…っ……! …うあ…っ! …はあ! …あ…あ…っはああ!
821 あああ……! …ふ……っ…あ…っ…ん…ん! …んん…っ! …っは……
822 ああ……! …んはああ……あ! …んあ……あ…あ……っ!
823 や…や…い…や…い…や…い…や…い…や…い…や…い…ふ…っあ! …っ…ん…ん

824 んっむう……！ うっうううっあ……う……！
825 や……や……も、う……だ、め……がま、ん……出来な……い……んんあ……あ
826 ……っ！ う……ううう！ ……っ！ ……っあ！ ん……んっ！
827 き、もち、いいっ……いいっ………気持ちいいよお………！
828 ん………んっう………うううう！ ……あああん……ん……こ、え………でちゃ………
829 うひひ………」

会長 「あらあら……ダメよ。我慢して……」

スィ 「む……り、です……もつ、イツちゃう……会長、イツちゃう……イ……ク、イクイクイクイクイクイクイク……」

836 会長 「だーめ。我慢よ……我慢。イってではだーめ。我慢して……」
837 我慢、我慢、我慢……うふふ……ああ、中……キツイ……」

スィ
839 「はっ……！ かはっ……！ んあっ！ ああうっ！
840 や……だ、め……あああ……あ……んん……ふううっあ……んん！
841 んん……もおお……ううだ……めええ！
842 イ……イ！クウ……ウ！っ……！！ イィイ……キィまあ……っすううう……！」

SE 潮吹き水音

846 スイ 「んあああんっ！ ふあああんんんんっ！！」

848
会長 「んあああ……！」

850
スイ

「はあー……はあー……はあー……はあー……」

会長「……うふふ、かわいい声……誰かに聴こえちゃったかも……」

854
スイ「い……いです」

856 会長 「え?」

859

860 スイ 「もう、いいんです。なにを聞かれたって……どんな私だって……もう、
861 誰にどう思われようと構いません。だって、こんなにえっちな女の子が
862 ……私なんですもの」

863
864 会長 「うふふ。そう、ね」
865

866 スイ 「だから……そんな…ことよりも。会長……もっと……。もっとです」
867

868 会長 「もっと……なあに？」
869

870 スイ 「もっと、してください。もっとイキたい！ 私、まだ足りない……！」
871

872 会長 「そうよ。外野の声など聴かず、自分の欲望のまま闘志を燃やす。
873 それでこそトップアスリートである本来の貴女の姿なのよ。
874 ……でも、こじじゃああなたの身体が冷えてしまうから……
875 じじらへい案内するわ」
876

877
878 //SE スイを抱き上げる音

879 スイ 「きゃ！ 会長……お姫様抱っこなんて……！ 私、重いですから……
880 おろこつくだわい……！」
881

882 会長 「あら、羽のように軽いわよ。それに……こんな状態で立てる。」
883

884 スイ 「……！（恥ずかしい）」
885

886 会長 「お連れするわ。特別ルームの隣は、バスルームになっているのよ」
887
888
889
890
891
892
893
894

終わる

895 T4 百合会長と、バスルームでのセッション♡

896 ■バスルーム 温かいシャワーの下で抱き合い熱烈なキスをしている二人

897 //SE シャワーの音 ♪!

898 //AD 会長・スイ、お互いの身体をまむぐり合いながらキスをする息
901 (15秒くらい) ♪!

902 スイ 「……ぷはあっ、会長の……お身体……す、てき……っ……です……！
903 会長、柔らかい……もっと触りたい……もっと……キス……した、い……で
904 す……」

905 会長 「ああ、スイ……。あなたって本当にどこまで私をキュンキュンさせる
906 の？ あなたの……お好きになっちゃって……」

907 スイ 「(乳房にじゃぶらっ)あむ……っんーんはあっ、んちゅんんん、
908 ちゅんん、ちゅんんちゅんんちゅんんちゅんんちゅんん、じゅんんん、んはっ……
909 ああ、会長の、おっぱっ……おっぱっ……っい、匂っ……んはっ、んんっ、
910 ちゅんん、んちゅんんんん、っはあ……美味し……んあうっ、あむんっ、
911 うちゅんん、ちゅんん、ちゅんんんん、んっちゅんんん、んはあ……
912 かい、ちゅ……かいちゅ……んああっ、ちゅんん、んちゅん」

913 会長 「(前セリフ合わせAD) ……っはあ、スイ……
914 そんな一生懸命に……貪るっ……っはあ……かわいい……。
915 愛っっっ、もっっ鳴かせたくなっっっ……(スイのあそっを触る)」

916 //SE アンコに触れる水音

917 スイ 「(おっぱい吸いながら)んあふ……んああ…、会長、そう……」

918 会長 「びっしょびしょ……ちゅきあんなにして差し上げたのに……」

919 スイ 「あんな、に…されちゃったから……待てな、い…ん、です……っ。
920 っあ！ クリ、剥かないで……っ！
921 (めっくら指くり責め)ああっ、んあ、ふあ、っは、ああっ、んんっ

930 じゅ、そんな、じ、強く……ぐらぐら、わわっ……だ、ら、……ふああ
931 っわっ」

932
933 会長 「んん……かわいい声……もっと聴かせて……」

934
935 スイ 「んあ、はあはあ……ふうふうん、んんっ、わ、たしも……
936 会長の……触って、いいですか……？ っはあ、はあはあ……」

937
938 会長 「もう、いちいち許可を取らなくても結構よ。私は、こうして……
939 私にさらしてくれる、あなたの全てを見届けたいの。
940 あなたのしたいことを、したいように……」

941
942 スイ 「(泣くのをじらえぬ) っはあ……
943 かい、ちよう……！ (会長のアソコに触れる)」

944
945 会長 「んんっ……ー」

946
947 //SE お互いのアソコを触れ合う水音

948
949 スイ 「っふああ、ああ、んあっうう、うふあん、ああ、ああ、ああ、
950 ……っあ、か……い、ちよう……の、アソコ……も、濡れてる……っ！
951 すじ……い……っあう、会長も……感じて、くださってるんですか…
952 ……？ ぬるぬる……で、あっ、い……んっああう……んんっ」

953
954 会長 「んっ、はあっ……だって、ん……あんなに、スイのエッチな顔を見続
955 けていたのよ……？
956 んふっ……あなた、が、……っふあ、絶頂に達して、気持ちよさそうに
957 のけぞるたび……欲情を、刺激されて……」

958
959 スイ 「……じゅ、されたかったですか……っ」

960
961 会長 「っああんっ……っ！ ス、イ……いきなり指入れない、で……」

962
963 スイ 「(会長に手マンしながら) 私のイッた顔見ながら……一人……
964 べっちょべっちょ……なってるんですかっ」
965

966 会長 「んああっ、んはっ、……っ、あっ、んああ、ンん……んんっ、んんっ、
967 スイ……あん、上手……」

969 スイ 「ああ……会長……どんどんエッチな顔になってってます……」

971 会長 「っはあ、はあ、じゃあ……スイのもっとエッチなお顔も見せて頂こう
972 かしら……（指入れる）」

974 スイ 「んあああ……っ！ んっはあああ……！ 会長……指、なが……いつ
975 ……っ！ ふあああ、あ、あ、ああっ……奥う……つま、で……きて……
976 んああっ、ふあ、あ、あ、あ、あ……っ！」

978 //SE 手マンをしあう水音
979

980 スイ 「あ……あ……っ！ っ……ああ……あ……あ……あ……あ……あ……あ……あ……
981 あ……あああ……ん……ふうう……うあ……あ……あ……く……う……う……う……う……
982 うううん……ああ……あ……あああ……ああんん」

984 会長 「ん……んっ！ ふ……う……っ！ っ……ん……んっ！ う……！
985 んうっ……！ く……う……う……う……う……う……う……ん……ん……ん……！
986 あ……う……ん……ん……ん……！」

988 スイ 「はあはあはあはあ、かい、ちよ……気持ち……いい……っ！
989 気持ち、いいよおお……！」

991 会長 「んふっ、ふあ、うふふ、素直に言えていい子ね……ご褒美に、ごっ……
992 ……もっと、いい子いい子……してあげましょね……」

994 スイ 「ふああああんっ！ んああっ！ そ、こ……っ、ああっ、いい、いい
995 いい……っ！ んはあっ、はあはあ、んああ、あっ、あっ、んはっ
996 そ、んな……擦られ、た……らっ……！
997 っうっう、んうああ、んあっ、んああっ！ かい……ちよ……おお……
998 ……おおっおおっんおっ……っ」

1000 会長 「スイ……っ。んう……（キス）」
1001

1002
1003 スイ 「(キスされながら喘ぐ)ん…うっ…うっ！ う…うっ…う…うー、んー
1004 ……んー…うっ！ うっ！ っ…、んあ…あ…あ…あっ…、ん
1005 ん…んん…んー！はあああ、ああ、ああ」
1006

1007 会長 「(キスされながら喘ぐ)んん…！ ん……っ…！ んんん…！
1008 ふっ…っ… ふっ……ぐ…うっ！ う……んん！ んんっ…！
1009 んんん…！ ふっ…！ ふっ…う……んんっ」
1010

1011 スイ 「ああー…、ああー…、も…う……らめえ…あ、あ、あ、あ、あ、
1012 気持ちいいー…気持ちいいー…気持ちいいよおお…！
1013 キスも…あそこも……ら、め……頭、溶け、るう……おおう、おお…っ、
1014 うっ…、おおっ、きもちいいいい…！ 会長、会長、会長、会長、
1015 会長、会長、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
1016

1017 会長 「んんんん！ はああああっ…ん…んん…んっ…ふ…うっ…っ…
1018 ……！んん…ああ…っ…スイ……わ、たし……も、もっ……イキ……そ
1019 ……！んん…んっ！ は…あああ…あ！ は…あああ…あ…んん
1020 んふ…うっ…うっ…うっ！ うっ…うっ…うっあ…ああ…っあああ…あ
1021 っっ！イ、キます……っ！」
1022

//SE 潮吹き水音

1023
1024
1025 スイ 「(絶頂)ーんはああああんんんんっ…！」
1026 会長 「(絶頂)んあああ…っ…っ…っ…！」
1027

1028 スイ 「(抱き合って落ち着かせる息AD 15秒くらい)」
1029 会長 「(抱き合って落ち着かせる息AD 15秒くらい)」
1030

1031 会長 「……はあ、スイ…… (キス)んちゅっ……」
1032

1033 スイ 「(キス受けて)んう……んはあ、はあはあ……ちゅるっ、んちゅるる、
1034 じゅる、ちゅぱっ……んあ…かい、ちよ……んあ……ちゅるる、ん
1035 じゅっ、すっ……かった、むちゅる……んじゅるる……」
1036

1037 会長 「んはっ……はあ、はあ……では、仕上げに入りましたか」

1038 スイ 「……し、あげ？」
1039

1040 (少し時間経過)

1041 //SE 水道からお湯が出る音……から、蛇口をしめる音
1042 //SE お湯の揺れる音(ちゃぽーんみたいな)
1043

1044 会長 「一緒に湯船につかってみましょう」
1045

1046 スイ 「……じゅ、ら」
1047

1048 会長 「大丈夫、あなたの心はもう水を克服しているはずよ。
1049 それどころか、すでにちゃんと受け入れてる」
1050

1051 スイ 「……頭ではわかってはいるのですが、こつした水の塊に入るのが……
1052 久しぶりすぎて……」
1053

1054 会長 「無理はしなくていいわ。じゃあ、お先に失礼するわね。
1055 (湯船に入る息AD)……はああ。ちょうどいい温度……」
1056

1057 スイ 「……………」
1058

1059 会長 「……？ どうかして？」
1060

1061 スイ 「あっ……、いえ、その……猫足のバスタブでリラックスしていらっし
1062 ゃる会長が……その、画になるなあ……って。
1063 つい、見とれてしまいました……」
1064

1065 会長 「ふふっ、おかしな子。
1066 そんなことしていたら身体が冷えてしまっわよ……」
1067

1068 スイ 「……」
1069

1070 会長 「まだ怖いなら足だけつけて、バスタブに座ってぐらんなさいな。
1071 足湯をするだけでも身体が温まるわ。……とおっ」
1072

1073 スイ 「……はい(バスタブに腰を掛ける息AD)」

1074
1075 会長 「うひひ……はあ……本当にキレイな足……こんな華奢な足が、
1076 あんなに力強いドルフィンキックを生むだなんて、信じられないくらい
1077 ……ね。(足にキス)ちゅっ……」
1078

1079 スイ 「はっ……ん」
1080

1081 会長 「(めっぺし足のいろんなよにっろにキス)ちゅ……ちゅっ……んちゅっ
1082 ……ちゅ……ちゅっ……」
1083

1084 スイ 「ああ……はあ……はあ……ん……会長、くすぶったい……です
1085 ……はあ……はあ……んっ」
1086

1087 会長 「スイの……足……かわいい……もっ、たまらない……スイ……
1088 (足の指舐め)んじゅるっ」
1089

1090 スイ 「(足舐め耐え息)んっっっ……くはっ……
1091 かい、ちょ……足の指の間……まだ、ない……ですから……っ
1092 ああっっ！ は……あ！ やあ……いあいあ……あっあ……ん……
1093 会長……舌……き、もち……いい……んはああ……ああっ！
1094 ……あああ……あっっんん……う……う……う……う……」
1095

1096 会長 「(足舐め)っはあ、んじゅるる、ぶちゅるる、んはあ……んちゅるっち
1097 めめめめめっ、じゅぼっじゅぼっじゅぼっ……んしっしっしっしっ
1098 ……んじゅるる、んちゅるる、じゅるっ、じゅぼじゅぼじゅぼ
1099 ぼ……んはあっ……声、かわいい……スイ……足広げて……その、かわいい
1100 声……もっと聴かせて……あむ……んっ……
1101 (クニッ)んじゅるるるっ……」
1102

1103 //SE クニッ水音
1104 //AD 会長クニッ息
1105

1106 スイ 「んひゃああっ！ か……いちよ……っ！ ああっ、んああっはあは
1107 あはあはあっ……いっ……あっ……っ！ さ……、っき……あんなに……
1108 ふああっ！ んはっ、イツ……た、ばっかり、だから……んきやうっ！
1109 ンあああ、ンあああ、あ、あ、あ、あ……っ！

1146
1147 スイ 「っはあー……っはあー……はあー……っはあー……」
1148 ……っはあー……っはあー……」
1149
1150 会長 「うふふ、ぎゅーっ。んはあ、じゅして……お湯の中であなたを
1151 後ろから抱きしめて差しあげたかったの、ずーっ」
1152
1153 スイ 「か……い、ちょ……」
1154
1155 会長 「スイ……。温かいわね」
1156
1157 スイ 「は……い……」
1158
1159 会長 「んふふ……」
1160
1161 スイ 「会、長……」
1162
1163 会長 「なあ……」
1164
1165 スイ 「（泣きながら）私……お風呂に……浸かれています……」
1166
1167 会長 「ええ、スイと一緒にお風呂に入っているよ」
1168
1169 スイ 「ああ……。気持ちいい……」
1170
1171 会長 「よかったわね、スイ……」
1172
1173 スイ 「会長……もっと抱きしめてください。もう二度と怖くならないよう」
1174
1175 会長 「（抱きしめ息）信じて。そんなことはもう、私のセッションを受ける前
1176 から……あなたは、とっくに知っていること」
1177
1178 スイ 「じゃあ……焼き付けて、私に。水が気持ちいいってことも……」
1179
1180 会長 「私のことも？」
1181 スイ 「……っ！ 会長……っ！（振り向き抱き着いてキス）んっっ……っ！」

1182
1183 会長 「んっ……。んっ……。ちゅっっ、んちゅっ……。っはあ、んっっ……。っっ、
1184 ……ちゅる、ちゅぶっ……。んちゅ」
1185
1186 スイ 「はむっっ……。っっ……。んちゅるる、んちゅっ……。あむっ、んちゅっっ、
1187 ちゅる、んちゅっ、っはあ、はあ、んっっ、ちゅるる……。っー。ぷはあ
1188 ……はあ……。はあ……。はあ……。会長……」
1189
1190 会長 「はあ……。はあ……。はあ……」
1191
1192 スイ 「この感覚……。忘れないうちに、プールに行ってきます」
1193
1194 会長 「うぶぶ、そっ」
1195
1196 スイ 「会長……。ありがとうございます……。っー！」
1197
1198 //SE 湯船から上がる音
1199
1200 会長 「スイ……。！ 念のために忠告だけど、水着、着て行きなさいな」
1201
1202 スイ 「……。っ！ ああっー！」
1203
1204 会長 「脱衣所に、一式、乾かして置いておかせたから」
1205
1206 スイ 「は、はい……。！ ありがとうございます……。っー！」
1207
1208 //SE 浴室の扉開いて……。締まる音
1209 //SE お湯の揺れる音 ちゃぶ……。ん
1210
1211 会長 「……。ぶっ」
1212
1213 会長M 「……。合言葉を伝えておくなんて。
1214 ……前水泳部部长はよっぽどスイを買っていたのね。
1215 人から愛されることも、天下を取る運のひとつ……。っか」
1216
1217 会長 「スイ……。がんばって……」

1218 //SE お湯の揺れる音 f.o

終わり

1219
1220

1221 T5 ロサンゼルスオリンピック

1222

■母親になったスイの後輩宅・夜のリビング

1223 テレビからニュースが流れている

1224 ※テレビから遠く聞こえるような加工がしたい

1225

1226 //ME ニュースのBGM 音

1227

1228 アナウンサー

1229 「では次のニュースです。ロサンゼルスオリンピック、

1230 本日の最初の金メダルは……競泳女子400メートル自由形、

1231 速水スイ選手です。

1232 速水選手は三日後に予選が行われる

1233 競泳女子800メートル自由形でもメダルが期待されており、

1234 もし金メダルを取ることができれば、前回のパリと合わせ、

1235 4つの金メダル保持者となります。

1236 いやあ……

1237

1238 (このあたりからアナウンサーセリフゆっくs.f.o)

1239

1240 速水選手絶好調ですね……！

1241 吉尾コーチのお父様が、一般の水泳教室で発掘されたとのことですが、

1242 速水選手の小さい頃はどんなお子さんだったんですか？……」

1243

1244 「わあ、速水先輩だあ……」

1245 後輩 子供 「ママのしてるひとおー？」

1246 後輩 「……うん！ ママが高校時代にお世話になった人でね……

1247 自慢の先輩なの！」

1248

1249 //ME ニュースのBGM f.o.

1250

1251 完